

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201884		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームハーベスト		
所在地	静岡県静岡市清水区渋川2丁目14番20号		
自己評価作成日	平成28年11月12日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosvoCd=2274201884-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 12月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様にもお手伝いいただき、ホーム内の清潔に努めています。 誕生会や季節のイベントにも力を入れており、外部からのボランティアの方との交流も持っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は10年前の開業当時の数名とほぼ5年以上勤務の人が多く、お互いを分かり合え人間関係が良いので働きやすい職場である。介護福祉士や有資格者が殆どで高い介護技術力と利用者を気遣い、意向の把握をし、趣味の継続を支援するなどその人にあった個別対応をしている。協力医のクリニックから毎朝本日の往診予定者の電話が入り、具合の悪い他の人も診て貰えるので安心である。元自治会長は現在地域防災委員になっていて、継続して運営推進会議に参加してくれ、地域の情報を聞けたり、災害対策に適切なアドバイスをもらっている。ドッグセラピーや歌・踊りなど外部からのボランティアの訪問が多い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすいところに掲示しています。家にいる時の様に掃除や家事をお手伝いして頂いています。「一緒に話をしたり歌ったり、作業をしたり」を考えて関わりを持っています。	開設当時に作った「人生の笑いの時一緒に笑って暮らす家」の事業所理念と「その人・そのために」の法人の理念は玄関・事務所・ホールなど目の届くところに掲示してある。職員はその人らしい個別対応を心がけているが、事業所の理念についての話し合い等はしていない。	理念について職員と話し合う機会を設け、理念を共有して同じ方向を向いて実践していけるようになることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の夏祭りやイベント等に声をかけて頂き、参加させてもらっています。散歩に出掛けると、近所の方に声を掛けて頂いたりし、交流が持っています。	ホームの回りを散歩中畑をやっている人から声をかけてもらうことがあり、野菜やお花のおすそ分けがある。運営推進会議で町内の役員から地域の情報を聞いて、防災訓練や地域の祭り等に職員と行ける人が参加している。近所の人々がドッグセラピーで夏以外は毎月訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂き、話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で出た意見や、指摘があった点は改善に努めています。ミーティングでホーム職員にも周知し、話し合いを行っています。	町内会役員・包括職員・家族の参加があり、2ヶ月に1度開催されている。元自治会長は現在地域防災役員になっていて、継続して出席して地域の防災について説明、事業所の災害対策にアドバイスをしている。家族の参加は固定化しており、議事録の送付はしていない。	運営推進会議の議事録を家族に開示するなどし、参加を促して会議への理解や協力が得られ、事業所の運営に活かされる様な会議の開催に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出などは、直接区役所に出向くようにしています。運営推進会議の案内も、包括支援センターの職員に手渡し、会議にも参加して頂いている。	生活保護受給者の生活支援について担当職員と連携をとっている。包括職員は会議の参加時にコミュニケーションをとって交流し、受け入れ相談などがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関の施錠はしていません。身体拘束をしないケアについて、職員は理解している。危険を伴う場合もあるが、工夫してケアにあたっています。	職員は利用者の安心・安全のために柵の取り付けやセンサーなどの意見を出し、拘束は状態を悪化させると話し合っ、拘束はしない工夫を検討し実践している。ヒヤリハットや事故事例は翌日・1週間後の状態のモニタリングをし、カンファレンス会議で話し合っプランに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合ったり、社内の回覧等を通して、職員が勉強する機会を設けています。気を付けていても、自分では気付かない事もあるため、気が付いた人が注意するよう心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体で学ぶ機会がありません。実際に後見人制度を利用している入居者様が少ないため、身近に感じず、難しくとらえがちです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族に詳しく説明し、理解と納得をしていただける様、努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族も参加して下さっているため、直接意見を伺うことができています。面会時に声を掛けさせて頂き、ご家族と関わりが持てるようにしています。玄関に意見箱を設置しております。	運営推進会議に参加した家族から「いろんなことが解るので参加するといいですね」と意見が出て、楽しめるようにイベントと会議をセットし案内を出す等反映させた。家族は気軽にホームに来る人が多く、面会簿の空欄に意見や今日の様子を記入して行く人がいて、職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行い、改善に努めています。	月1回全体会議の後、ユニット毎の会議をし、職員は活発に意見を出し、話し合いをしている。栄養・防災・レク委員など1・2階のスタッフ一人づつで構成される委員で話し合い決めたことを会議で発表し反映させる仕組みになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームに本社の上司の訪問があるため、その際に報告や相談をしています。面談や、その場で職員の意見を聞くことで、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を実施しています。希望者は、社外研修に参加することもできます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の行事に参加させて頂く機会があり、交流を持っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の立場に立って話を聞いたり、声を掛けることで安心感を持ってもらえる様、努めています。 普段から、話をよく聞くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご家族から話を聞くように努め、ご家族の思いを少しでも把握できるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人から、現在の状態について話を伺い、得られた情報をもとに、支援出来る事やサービスの利用について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な事は手伝って頂いたりし、その人に合わせたことをさせて頂くようにしています。 レクや運動なども、職員と一緒に参加してもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会に来て頂ける様、働き掛けています。 面会時に食事介助のお手伝いをして頂いたり、受診や外出の付添いをお願いしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切にしてきた方が、いつでも来て頂ける様に努め、帰られる時には感謝の気持ちを伝えるようにしています。	元職場の同僚や友人・近所の人などが訪問されると職員は「喜んでいるので又きてください」と再来訪の声掛けをしている。子供の頃から行っている神社に職員と一緒にいたり、馴染みの理美容室へ家族や職員が対応して出かけるなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方を同じテーブルの席にしたりし、関わりが持てるようにしています。 1階と2階で合同レクを行ったりし、普段あまり接することのない方とも交流が持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて家族や必要機関に情報を提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをとり、ご本人の要望等を把握できるようにしている。 モニタリングを行い、職員全員で意見を出し合って検討しています。	1対1になる入浴時や居室で眠る前などに色々な話が聞ける。家族に以前夢中になってやっていたことなどを聞いて観察の中で見つけることがある。他の人が洗濯を畳むのを見ているので、お願いしたら綺麗にしてくれ、感謝の言葉を伝えて継続して畳んでくれるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を職員間で共有し、馴染みの生活が送れる様、居室の環境整備やサービスの提供に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録や申し送りなどにより、職員全員が共有できる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、医療関係者やご家族と話し合いを行っています。 定期的にモニタリングを行い、職員が意見や問題点を出し合って、介護計画を作成しています。	6ヶ月か1年で評価をし見直しを行っている。家族は面会時や電話で職員と話し、要望を伝えていて、担当職員が中心になってカンファレンス会議でモニタリングや検討内容を話し合い、本人の思いを大事にした現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や受診記録への記入を行っています。気づきや気になる点などは、申し送りノートなどを活用して、職員間で情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況の変化などによる新しいニーズに対応できる様、状況の把握に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部のボランティアさんに来て頂き、楽しみや交流の機会を増やせるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向に添い、馴染みの主治医あるいはホームの協力医から医療が受けられる様、支援しています。 受診にご家族が付き添えない場合は、職員が付添いを行っています。	入居前からの馴染みの主治医に家族対応で受診している人もいますが、協力医に変更している人が多い。毎朝事前に往診の電話が入り、突発の発熱や転倒事故などがあっても協力医にかかってない人でも他科受診としてみてもらえ安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師に情報を提供しています。 毎日、協力医院の看護師に必要な情報を提供し、円滑に診察が受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態の変化や、ホームでの様子を細かく医療機関に伝えるようにしています。 退院後のために入院中の様子などの確認や情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、ご家族に説明し、意向を聞いています。 早期に家族との話し合いの場をもち、主治医からの説明を聞いたうえで出来るケアについて説明しています。	入居時に看取りの指針を説明し、意向の確認と、急変時に家族が間に合わなかった時の対応法や事業所でできることの確認等をしている。状態が悪化した時医師から管理者と家族が説明を受け、職員と話し合って同じ方向を向いての看取りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できる様、ホーム内研修で学んだり、職員間で意見交換をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っています。自治会の防災訓練に参加したり、運営推進会議の際に、自治会の取り組みなどを教えて頂いたりして連携し、緊急時の対応について、アドバイスを受けています。	地域の防災役員から運営推進会議で火災や地震のみではなく台風対策等のアドバイスももらっている。年2回の訓練以外に2～3ヶ月に1度、車椅子の人を2人で抱えて2階から降ろしたり、1階から2階へなどの避難訓練を行っている。夜間を想定してや災害ダイヤルを使つての訓練をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングなどで、言葉掛けの話は時々しています。入居者様一人一人に合った言葉掛けを実践していますが、上手く出来ていないところもあります。	ベテランの職員が多く、決して大声でなく、穏やかな声掛けやその人に合わせた気遣う対応をしているが気づかないで少し口調が激しくなってしまうことがあったり、不適切な言葉を聞いたときは、管理者から注意したり、ミーティングの時話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散歩などの希望には、可能な限り実現できるように心掛けています。自らの思いや希望を引き出す働き掛けが、上手く出来ていないところがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、休息や入浴の時間、就寝時間などを考えて提供しているが、職員の都合になっているところもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の着たい物を身につけて頂いています。衣類を選ぶ事の出来ない方には、季節やその時の状況に合った服装ができるよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの物や季節に合った食材を取り入れ、食べやすい状態でお出ししています。職員が同じテーブルに付き、声を掛けながら食事をしています。テーブル拭きやお皿拭きなどを、お手伝いして頂いています。	利用者はテレビを見て献立の希望を言うことがあり、利用者の希望や季節に合わせた料理を栄養委員が献立を立て、事業所で手作りして提供している。職員は利用者と同じものを食し、会話をしながら食事が楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の年齢や体調、好みに合わせて量や食事の形態を変え、完食できるようにしている。10時、3時、入浴後などに水分を摂って頂き、水分量を確保できるようにしています。食事量、水分量ともに表に記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず出来ない入居者様もいますが、状態に合わせて声を掛け、見守りや介助をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けをするなどし、排泄の失敗を減らせるよう工夫しています。自力でトイレに行けない方は、介助をすることで、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援しています。	100歳近くなくても最後までトイレでの排泄を望む人に立位を保たせる為に家族と相談し訪問マッサージを受けている人、居室のポータブルトイレで昼夜排泄する人、2人介助でトイレに行ける人、朝食後排便コントロールができるようになった人など個別に対応する支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を摂って頂いたり、廊下を歩いたり、スクワットなどの運動を行っています。可能な限り排便の有無を把握して対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね2日おきのペースで入浴して頂いています。時間帯や順番などは職員の都合になりがちですが、可能な限りご本人の希望も考慮しています。	1階は午前中に入浴をしているが、2階は午後希望の人がいて午前と午後で入浴を支援している。朝1番風呂を希望する人、シャワー浴希望等個別にあわせた対応をしている。男性はめんどくさがりが声掛けに工夫し浴室まで誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ類を洗濯したり、布団を干して気持ちよく休んで頂いています。休息したい方は自室で休んでもらい、静かな環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、申し送りノートを活用して職員間で共有しています。不明な点や気付いた事は、医師や薬剤師に相談しています。内服確認をきちんと行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や季節の行事を行い、皆でにぎやかに過ごす時間もあります。散歩や嗜好品の買い物、外食などの支援もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自分の意志で一人で外出される方がいます。 買い物の希望があれば、できる限り即対応するようにしています。 外出の際にご家族が協力して下さることもあります。	玄関前のベンチに座り、外気浴をしている。 事業所の周りや公園まで散歩したり、歩いて数分の店にお菓子など買い物に出かけている。 利用者はドライブで遠出したり外食に行くことを楽しみにしているのでレク委員が計画を立て出かけている。一人で午後毎日自由に外出している人がいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が小遣いを所持している方もおり、買い物の際の支払いをして頂いています。 その方の力に応じて、支払いの介助の仕方も変えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある入居者様には、ご家族と相談の上、電話でのやり取りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の明るさや温度などに配慮し、不快の無いよう心掛けています。 季節感を味わってもらえる様、貼り絵や飾り付けをしています。	南向きの居間は明るく日差しをカーテンで調節している。大きな温度計を置きエアコンや加湿器で温湿度に気をつけている。手作りカレンダーや季節を感じる作品を飾ってある。 新しく入った人の席決めに気を使い、一人で食事をしたい人や個々の希望も取り入れ居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で近くの席に座って頂いたり、一人がいい方は個別のテーブルで食事をして頂いたりしています。 自席に座っているだけでなく、ソファに座ってもらうなどしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室内を自分好みにしている方もいるため、ある程度は任せています。 衣替えをしたり、タンスの中の整理や家具の配置換えなどをして、ご本人が使用しやすいよう支援しています。	居室担当職員が整理・整頓・清掃をし、清潔に保たれている。壁に作品を飾ったり、家族写真を貼ってその人らしい居室になるよう支援している。以前から使っていた馴染みの筆筒やテレビ・机・ソファ等置いてその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かるよう、表札を設置したりしています。 できるだけ安全に生活できる様に配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201884		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームハーベスト		
所在地	静岡県静岡市清水区渋川2丁目14番20号		
自己評価作成日	平成28年11月12日	評価結果市町村受理日	平成29 1月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201884-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年 12月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にもお手伝いいただき、ホーム内の清潔に努めています。
誕生会や季節のイベントにも力を入れており、外部からのボランティアの方との交流も持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすいところに掲示しています。家にいる時の様に掃除や家事をお手伝いして頂いています。「一緒に話をしたり歌ったり、作業をしたり」を考えて関わりを持っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地区の夏祭りやイベント等に声をかけて頂き、参加させてもらっています。散歩に出掛けると、近所の方に声を掛けて頂いたりし、交流が持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂き、話をさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場が出た意見や、指摘があった点は改善に努めています。ミーティングでホーム職員にも周知し、話し合いを行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出などは、直接区役所に出向くようにしています。運営推進会議の案内も、包括支援センターの職員に手渡し、会議にも参加して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関の施錠はしていません。身体拘束をしないケアについて、職員は理解している。危険を伴う場合もあるが、工夫してケアにあたっています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で話し合ったり、社内の回覧等を通して、職員が勉強する機会を設けています。気を付けていても、自分では気付かない事もあるため、気が付いた人が注意するよう心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体で学ぶ機会がありません。実際に後見人制度を利用している入居者様が少ないため、身近に感じず、難しくとらえがちです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族に詳しく説明し、理解と納得をしていただける様、努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族も参加して下さっているため、直接意見を伺うことができています。面会時に声を掛けさせて頂き、ご家族と関わりが持てるようにしています。玄関に意見箱を設置しております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行い、改善に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームに本社の上司の訪問があるため、その際に報告や相談をしています。面談や、その場で職員の意見を聞くことで、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を実施しています。希望者は、社外研修に参加することもできます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の行事に参加させて頂く機会があり、交流を持っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の立場に立って話を聞いたり、声を掛けることで安心感を持ってもらえる様、努めています。 普段から、話をよく聞くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に、ご家族から話を聞くように努め、ご家族の思いを少しでも把握できるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人から、現在の状態について話を伺い、得られた情報をもとに、支援出来る事やサービスの利用について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な事は手伝って頂いたりし、その人に合わせたことをさせて頂くようにしています。 レクや運動なども、職員と一緒に参加してもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会に来て頂ける様、働き掛けています。 面会時に食事介助のお手伝いをして頂いたり、受診や外出の付添いをお願いしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切にしてきた方が、いつでも来て頂ける様に努め、帰られる時には感謝の気持ちを伝えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方を同じテーブルの席にしたりし、関わりが持てるようにしています。 1階と2階で合同レクを行ったりし、普段あまり接することのない方とも交流が持てるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて家族や必要機関に情報を提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをとり、ご本人の要望等を把握できるようにしている。 モニタリングを行い、職員全員で意見を出し合って検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を職員間で共有し、馴染みの生活が送れる様、居室の環境整備やサービスの提供に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援記録や申し送りなどにより、職員全員が共有できる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、医療関係者やご家族と話し合いを行っています。 定期的にモニタリングを行い、職員が意見や問題点を出し合って、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や受診記録への記入を行っています。気づきや気になる点などは、申し送りノートなどを活用して、職員間で情報を共有しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況の変化などによる新しいニーズに対応できる様、状況の把握に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部のボランティアさんに来て頂き、楽しみや交流の機会を増やせるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向に添い、馴染みの主治医あるいはホームの協力医から医療が受けられる様、支援しています。 受診にご家族が付き添えない場合は、職員が付添いを行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護師に情報を提供しています。 毎日、協力医院の看護師に必要な情報を提供し、円滑に診察が受けられる様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態の変化や、ホームでの様子を細かく医療機関に伝えるようにしています。 退院後のために入院中の様子などの確認や情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、ご家族に説明し、意向を聞いています。 早期に家族との話し合いの場をもち、主治医からの説明を聞いたうえで出来るケアについて説明しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応できる様、ホーム内研修で学んだり、職員間で意見交換をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っています。 自治会の防災訓練に参加したり、運営推進会議の際に、自治会の取り組みなどを教えて頂いたりして連携し、緊急時の対応について、アドバイスを受けています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングなどで、言葉掛けの話は時々しています。 入居者様一人一人に合った言葉掛けを実践していますが、上手く出来ていないところもあります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散歩などの希望には、可能な限り実現できるように心掛けています。 自らの思いや希望を引き出す働き掛けが、上手く出来ていないところがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、休息や入浴の時間、就寝時間などを考えて提供しているが、職員の都合になっているところもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の着たい物を身につけて頂いています。 衣類を選ぶ事の出来ない方には、季節やその時の状況に合った服装ができるよう心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの物や季節に合った食材を取り入れ、食べやすい状態でお出ししています。 職員が同じテーブルに付き、声を掛けながら食事をしています。 テーブル拭きやお皿拭きなどを、お手伝いして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の年齢や体調、好みに合わせて量や食事の形態を変え、完食できるようにしている。 10時、3時、入浴後などに水分を摂って頂き、水分量を確保できるようにしています。 食事量、水分量ともに表に記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に必ず出来ない入居者様もいますが、状態に合わせて声を掛け、見守りや介助をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けをするなどし、排泄の失敗を減らせるよう工夫しています。自力でトイレに行けない方は、介助をすることで、できるだけトイレで排泄して頂けるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品を摂って頂いたり、廊下を歩いたり、スクワットなどの運動を行っています。可能な限り排便の有無を把握して対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおむね2日おきのペースで入浴して頂いています。時間帯や順番などは職員の都合になりがちですが、可能な限りご本人の希望も考慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツ類を洗濯したり、布団を干して気持ちよく休んで頂いています。休息したい方は自室で休んでもらい、静かな環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、申し送りノートを活用して職員間で共有しています。不明な点や気付いた事は、医師や薬剤師に相談しています。内服確認をきちんと行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や季節の行事を行い、皆でにぎやかに過ごす時間もあります。散歩や嗜好品の買い物、外食などの支援もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自分の意志で一人で外出される方がいます。 買い物の希望があれば、できる限り即対応するようにしています。 外出の際にご家族が協力して下さることもあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が小遣いを所持している方もおり、買い物の際の支払いをして頂いています。 その方の力に応じて、支払いの介助の仕方も変えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある入居者様には、ご家族と相談の上、電話でのやり取りの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の明るさや温度などに配慮し、不快の無いよう心掛けています。 季節感を味わってもらえる様、貼り絵や飾り付けをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で近くの席に座って頂いたり、一人がいい方は個別のテーブルで食事をして頂いたりしています。 自席に座っているだけでなく、ソファに座ってもらうなどしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室内を自分好みにしている方もいるため、ある程度は任せています。 衣替えをしたり、タンスの中の整理や家具の配置換えなどをして、ご本人が使用しやすいよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かるよう、表札を設置したりしています。 できるだけ安全に生活できる様に配慮しています。		